

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 国語編 ① 概要

校種・学年	小学校・5学年	教科等	国語
単元名・教材名	色々な角度から物事をとらえ、自分の考えを表現しよう 「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」		
単元の目標	(1) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)オ (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉(2)イ (3) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)エ (4) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉		
単元における言語活動	グラフや図表を活用しながら自分の考えをまとめて書く。 (関連：言語活動例 B(2)ア)		
本時の学習指導 (11/12 時)	(1) 目標 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉 (2) 評価規準 粘り強く自分の考えが伝わるように、引用したり図表やグラフなどを用いたりしながら今までの学習を生かして書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】		

事例の概要(見どころ)

本事例は「単元における言語活動」の設定から「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を手順に沿って適切に作成し、ICTを活用して児童の学習の状況を確認に見取る手立てを示している。単元全体では、教科書の連続する2教材を〔読むこと〕及び〔書くこと〕の指導事項を扱う複合単元としている。教科書で読み取ったことを生かしながら、普段の生活について感じていることを、グラフや表を活用して自分の考えを書く活動につなげている事例である。

発行：令和5年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>





P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～ 小学校 国語編 ② 指導展開

- 目標 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)
- 評価規準 粘り強く 自分の考えが伝わるように、引用したり図表やグラフなどを用いたりしながら 今までの学習を生かして 書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

【主体的に学習に取り組む態度】の評価規準を、以下の4つの内容を全て含め、適切に設定しています。
粘り強さ 【知識・技能】または【思考・判断・表現】の2観点において重点とする内容
自らの学習の調整 自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動

○展開 (11 / 12時)

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	既習の【指導事項】と本時の【指導事項】を意識しながら行います。	○振り返りは児童の言葉で確認するようにする。
もらったアドバイスを共有して、自分の文章をよりよくしよう。		
 2 自分がもらったアドバイスを参考になったものをアプリ(ムーブノート)で共有する。	【授業改善の視点】 【主体的に学習に取り組む態度】を評価する際、設定している言語活動を通して指導事項を身に付けようとしているかを評価する必要があります。時間を十分確保するように留意することが大切です。	○学習活動を把握し、学習の見通しをもてるようにする。 ○単元における言語活動：グラフや図表を活用しながら自分の考えをまとめて書く活動。(関連：言語活動例B(2)ア)
<期待される児童の反応> ・グラフのどこを見たらよいのか示した方がいい。 ・具体例が分かりやすくてよいと思う。 ・文章の構成を〇〇するとよい。 ・その他、語法、用法の誤りなど。	○推敲の視点 ・全体の構成 ・具体例の分かりやすさ ・自分の文章のよい所	○交流の目的を伝え、資料の使い方や文章構成に関するアドバイスを伝えるようにする。(誤字・脱字の指摘を中心としないようにする。)
【指導事項】につながる反応を具体的に想定しています。		【授業改善の視点】 ICTを効果的に活用しながら、「指導事項を指導する」実践が求められます。国語科では「考えの形成」「表現」「共有」「推敲」等の学習過程においてICTを活用することが効果的です。
3 ムーブノートで共有したアドバイスから自分に使えると思ったものを見つけ、ノートに記録する。	・他者の意見と自分の意見との比較、関係付け 共有した内容の中から、児童が自分に必要な情報を抽出し、ノートに記録することで意識を高めています。	○ノートに記録後、アプリのコメント機能(ムーブノート)を使って、アドバイスについて感じたことを交流するようになる。 

4 アドバイスを基に自分の文章を推敲する。

【授業改善の視点】
重点を置く活動に十分な時間を取り、確実に見取るようにすることが大切です。



○文章全体の構成

【授業改善の視点】
「深い学び」につなげるために、下記のような声かけが効果的です。
①根拠を明らかにすることを求める問い「何で」など。
②児童・生徒が詳しく状況を説明しなければならないような問い「なぜ、そう考えたの」「何をヒントにしたの」など。

5 本時のまとめをする。



○学習のポイント

- 「推敲の視点」
- ・全体の構成
- ・具体例の分かりやすさ
- ・自分の文章のよい所

「本時にどんな学習内容を学んだのか」を改めて児童に意識させるとともに、児童自らが理解したり表現したりした言葉に対して、より自覚的になるように工夫しています。

6 振り返りをする。

〈期待される児童の振り返り〉

- ・先生の例文にあったように具体例をしっかり出すことで、言いたいことがきちんと相手に伝わることが分かった。
- ・最初と最後で自分の主張がずれていたことに気付けた。全体をもう一度見直すと、書いているうちにずれてしまうことがあると分かって良かった。
- ・今までの学習を生かして友達の文章を読むことで、もっとよくなるポイントを見つけることができた。何のために読むのか意識することが大事だと思った。

「まとめ」と「振り返り」を分け、ねらいに沿って意図的・計画的に時間を設定しています。

評価規準

【主体的に学習に取り組む態度】

＜評価方法＞

清書した文章の考察（タブレット）、観察

- ・ここでは、友達からもらったアドバイスを基に、自分の文章をより良くしようとしているかを確認する。
〈「努力を要する」状況（C）への手立て〉
- ・アドバイスの生かし方を具体的に示すとともに、推敲の視点を一つ意識させることで、主体的に取り組めるように助言する。

○数名の児童に、自分の考えの過程を発表させ、「推敲の視点」を的確に押さえるようにする。

【授業改善の視点】

「言葉による見方・考え方」を働かせるとは……。児童・生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。（小解説・国語編P154参照）

○学習内容について、自分が何を学んだのかという「内容面」と自分の学び方はどうであったかという「方法面」の両方の振り返りができるようにする。



【授業改善の視点】

振り返りの記述内容としては、次のような項目が考えられます。
本時や本単元において①学習で意識したこと。②身に付いた力やできるようになったこと。③課題を解決するために試行錯誤したこと。④前時までに学習したことで役立ったこと。⑤工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。⑥今後の学習や生活の中で生かせそうなこと、など。